

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：33202

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23614027

研究課題名(和文) 北陸・飛騨地域の伝統的文化・自然資源の観光価値に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Value of Tourist Resources in Hokuriku-Hida Region, Japan

研究代表者

高橋 光幸 (TAKAHASHI, Mitsuyuki)

富山国際大学・現代社会学部・教授

研究者番号：30512264

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：中国人観光客の誘致促進という観点から北陸・飛騨地域の伝統的文化や自然資源の観光価値を再評価し、その保全と活用のあり方を考察することを目的とした。目的にしたがい、東アジア諸国の観光政策と観光動向の把握、わが国の国際観光政策の展開と訪日外国人観光客の動向及び地域の課題の把握、北陸・飛騨地域の観光資源・観光施設に対する中国人観光客のニーズと評価の把握、中国人観光客に対する地域の対応のあり方の考察、ならびに北陸・飛騨地域の観光資源の現状と保全のあり方の考察を研究課題とした。

研究成果の概要(英文)：In this research, we reexamined the value of tourist resources and their conservation policy in Hokuriku-Hida region in order to increase tourism from China. Our examination was focused on the following five areas: - tourism policies and tourism trends in East Asian countries; - transition of Japanese international tourism policies, trends of foreign tourists to Japan, and problems in tourism development in regions of Japan; - opinions of Chinese tourists concerning the tourist resources and the tourist facilities in Hokuriku-Hida region; - attitude and service of local people concerned with tourism in relation to Chinese tourists; - present conditions of tourist resources in Hokuriku-Hida region and difficulties with conservation of these resources.

研究分野：時限

科研費の分科・細目：観光学

キーワード：中国人観光客 観光資源 保全 利用 価値

1. 研究開始当初の背景

わが国では、アジア諸国、特に中国からの観光客の誘致がインバウンド政策の大きな柱の一つであるが、訪日中国人観光客は、東京・富士山・大阪を結ぶ「ゴールデンルート」に集中し、北海道や山梨県などを除けば地方を訪問する観光客は少ない。このため、地方の活性化のためには、訪日中国人観光客の地方への誘致が重要な課題である。

しかし、地方の観光行政や観光事業者においては、国のインバウンド政策の意義や政策課題の理解が不十分、中国人観光客のニーズを十分に把握できていないため、観光資源の活用・提供方法がわからない、中国人観光客への対応方法がわからないという状況がみられる。また、地域社会の変容により従前の観光資源保全の仕組みが機能低下し、地域の貴重な観光資源の保全が困難になりつつある。

以上の状況認識と問題意識により、中国人観光客の誘致促進という観点から北陸・飛騨地域(以下当該地域という)の伝統的文化や自然資源の観光的価値を再評価し、保全と活用の方向性を考察することを目的とした。この目的のもとつき、第1に東アジア諸国の観光政策と観光動向、第2にわが国の国際観光政策の展開と訪日外国人観光客の動向及び地域の課題、第3に当該地域の観光資源・観光施設に対する中国人観光客のニーズと評価、第4に中国人観光客に対する地域の対応のあり方、第5に当該地域の観光資源の現状と保全のあり方、について把握・考察することを研究課題とした。

2. 研究の目的

(1) 東アジア諸国の観光政策と観光動向

中国、台湾、韓国、香港、タイ及びシンガポールの6か国・地域を対象に、休暇制度、外国旅行自由化の歴史、日本への旅行条件、外国旅行者数と出国率、訪日旅行者数と特徴、外国人訪問者数と入国率等を調査した。さらに中国の観光市場の歴史、中国人の国内観光・外国人の訪中旅行・中国人の国外観光の特徴を調査した。

(2) わが国の国際観光の展開と動向及び課題

当該地域で外国人旅行者誘致を持続的に進めるためには、インバウンド政策の歴史的な意義と訪日外国人旅行者の観光動向等を踏まえた施策の展開が必要であると考え、明治から今日に至るまでの日本の国際観光政策の展開と現在のインバウンド政策の位置づけと意義を考察したうえで、訪日外国人旅行者の国内動向を検討し、地方への誘致促進のための基本的視点と課題を把握した。

(3) 北陸・飛騨地域の観光資源及び観光施設に対する中国人観光客のニーズと評価

当該地域への中国人旅行者誘致を進めるためには、地域の中心的な観光資源や観光施設

に対する中国人旅行者の満足度や評価を把握することが必要である。しかし、既往研究においては、主として訪日中国人旅行者及び在日中国人の観光動向や観光行動の全国的特徴の調査・分析が行われ、他に、訪日中国人個人観光客の訪日期間中における観光行動と観光消費の実態を解明する研究、観光地の景観画像に対する心理的評価構造の研究、訪日ツアー参加者の満足度や中国人個人海外旅行者の旅行情報収集とその満足度に関する研究などが行われてきたが、地域の観光資源や観光施設に対する中国人旅行者の評価に関する研究は少ない状況である。このため、富山県及び岐阜県の観光資源と観光施設に対する中国人旅行者の評価を把握した。

(4) 中国人観光客への対応のあり方

各地で中国人観光客と受け入れ側とのさまざまなトラブルが起きていることから、積極的な異文化理解と交流の強化によりお互いの摩擦を解消し、観光の意義と価値を実現することができるかについて考察を行った。

(5) 北陸・飛騨地域の観光資源の現状と保全のあり方

1) 観光資源及び観光施設の概念の整理：地域の観光振興を進めるうえで観光資源概念の統一が重要であるが、観光資源の定義や分類方法・範囲などについてさまざまな解釈がなされ、見解が統一されていない状況である。このようなことから、観光資源の定義と分類方法に関する戦前から今日までの研究者の論点を整理・分類し、その特徴と課題を明らかにした。同時に観光対象や観光施設等の関連用語の検討も行った。

2) 世界遺産・五箇山地域の観光の現状と課題：各国の世界遺産及び平泉の現状と課題を検討し、五箇山地域の課題と課題解決のための方策を考察した。また、平泉町と五箇山地域を比較することにより共通性と相違点の検討を行った。

3) 砺波平野散村景観の現状と課題：地域の歴史・文化、暮らし方などが重要な観光対象となってきたが、地域社会の変容により観光資源を保全・利用してきた仕組みが機能低下していることから、新しい仕組みをつくり、地域資源の保全に取り組むことが必要である。このため、砺波平野散村景観の現状と保全の取り組みを調査・分析し、複合型資源である散村景観の保全のあり方を考察した。

4) 「つながり」による観光地域づくり：人々が「つながる」観光地域づくりが重要であるが、そのような観光地域づくりが進展しているとは言い難い状況がみられる。このため、「つながり」を中心に据えた観光地域づくりのあり方を考察した。

5)入善町民会館の建築的価値とその影響：1986年に大江宏設計の建築物が富山県入善町に出現し、そのデザイン・モチーフや技術手法は県下の建築設計関係者に受容され、富山における地域主義的建築成り立りに大きな影響を与えた。その現代建築史的側面に注目して、それらの建築現象を推察した。

3. 研究の方法

(1)東アジア諸国の観光政策と観光動向

先行研究や文献、国際観光機関・中国国家旅游局・観光庁・日本政府観光局などの資料を中心に、訪日旅行を推進している在京旅行会社への聞き取り調査を併用しながら実態解明を行った。

(2)わが国の国際観光の展開と動向及び課題

国際観光の展開は国鉄・日本交通公社・研究者の文献調査、訪日外国人旅行者の国内動向は日本政府観光局資料の調査・分析により行った。訪日外国人旅行者誘致のための地方の基本的課題は、北陸・飛騨地域の観光関係者へのヒアリング、現地調査、ならびに各種文献調査により検討・考察を行った。

(3)北陸・飛騨地域の観光資源及び観光施設に対する中国人観光客のニーズと評価

若い世代の中国人旅行者の観光資源及び観光施設に対する評価の把握のため、富山国際大学の中国人留学生を20代の中国人旅行者とみなし、富山県(南砺市、砺波市、高岡市、氷見市、黒部市)と岐阜県(高山市)の観光資源及び観光施設(計20カ所)に対する現地評価調査を行った。調査参加留学生の実数は25名(男性9名、女性16名)である。

また、視察、家族・親戚・友人訪問、観光などさまざまな目的で富山県を訪問した中国人個人旅行者に対し富山県に対する認識や観光資源の評価などに関するアンケート調査を実施した。回答者数は55名(学生15名、会社員19名、定年退職者11名、経営者・医者10名)である。

(4)中国人観光客への対応のあり方

日本政府観光局や中国国家旅游局の資料、日本の新聞社の新聞記事、各種文献などの調査・分析を行い、それをもとに考察を行った。

(5)北陸・飛騨地域の観光資源の現状と保全のあり方

1)観光資源及び観光施設の概念の整理：上梓されている日本人研究者の文献を中心に検討を行った。

2)世界遺産・五箇山地域の観光の現状と課題：世界遺産に関する先行研究の成果や文献・資料の調査、テオティワカン遺跡調査結果の再検討、平泉に関する資料調査と現地調査、南砺市の行政資料や関係機関の資料の調査、現地聞き取り調査及び現地踏査を行った。

3)砺波平野散村景観の現状と課題：砺波市立砺波散村地域研究所をはじめ多くの研究者・研究機関によって砺波平野の散村に関する実態調査や住民の意識調査などが実施されてきた。これらの先行研究の成果を援用し、現地調査を加えて研究を行った。

4)「つながり」による観光地域づくり：北陸・飛騨地域及び東北地方の被災地の現地調査、文献資料、新聞記事調査を併用して調査・考察を行った。

5)入善町民会館の建築的価値とその影響：現地調査と設計過程の資料収集、関係者への聞き取り調査、形態類型分析とデザイン・モチーフの系譜の解釈学的考察を行った。

4. 研究成果

(1)東アジア諸国の観光政策と観光動向

台湾、韓国、香港、タイ及びシンガポールについては、出国率や入国率、旅行内容等を概観すると、観光の現状は中国本土よりもかなり進んでいることを把握できた。

中国では個人査証取得の困難さや旅行経験・語学面・価格面の制約もあって団体旅行が主となっている。このため、団体旅行の特性から目的地の知名度と価格が重視され、旅行内容には関心が深まらないという制約があることを把握した。中国人の訪日旅行の訪問地としては「ゴールデンルート」が圧倒的に多いが、観光経験度が高くなっている北京・上海・広東省などの先進市場では、東京と北海道や沖縄を連携させる商品や、ゴールデンルートの変形版が人気を伸ばしていることが判明した。

(2)わが国の国際観光の展開と動向及び課題

わが国の国際観光政策の基本的な理念は、明治以降1970年代前半に至るまで、一貫して外貨獲得による国際収支の改善にあった。しかし、経常収支の大幅な黒字により外貨準備高が増加する中で、国際社会の相互理解と国際親善・国際協調に政策の重心が移り、その後、外国人旅行者誘致による外貨獲得から海外旅行振興による外貨消費へと方向転換した。しかし、バブル経済崩壊後の1990年代初頭以降、訪日外客誘致による外貨獲得が再び期待されるようになり、地方への訪日外客の誘致を進め、地域経済の活性化を図ることが政策の柱になったことを把握した。

訪日外国人旅行者の国内動向については、旅行者が大都市を中心とした地方に集中している一方、大都市以外の地方においては旅行者が少ないこと、各地方には人気のある市場(国)が存在していること、初訪日の外国人旅行者の多くは東京、箱根、京都、大阪などの「ゴールデンルート」を訪れるが、訪問回数が2回以上になると地方の観光地を訪れることが多くなることを把握した。

地方への訪日外国人旅行者の誘致を進め、地域経済の活性化を図るためには、滞在型観光の着実な展開、魅力的で豊かな地域空間の形成、訪日外国人旅行者の観光ニーズを的確に捉えた観光戦略の構築・実施などが課題であることを示した。

(3)北陸・飛騨地域の観光資源及び観光施設に対する中国人観光客のニーズと評価

中国人留学生による現地評価調査においては、留学生の出身地と観光資源や観光施設に対する評価との間に何らかの相関があるのではないかと考えて調査を行ったが、研究の結果、出身地と評価の間には相関はみられなかった。また、一部の観光資源及び観光施設を除き、男女ともに概ね同じような評価を行っており、満足者の割合が男女ともに50%以上の観光資源や観光施設は、調査対象観光資源及び観光施設(20か所)の65%だった。ただし、男女とも満足者の割合が高い場合でも、男性は女性よりその割合が高く、女性は男性よりも不満足及び不明・無回答の割合が高いという傾向が見られることを把握できた。

視察、家族・親戚・友人訪問、観光など様々な目的で富山県を訪問した中国人個人旅行者に対するアンケート調査(20代及び30代が約5割、30代以上が約5割)から、中国人旅行者は富山県に対する事前認識が低いこと、宿泊施設・自然環境・温泉への満足度が高いこと、土産品へのニーズが高いこと、寺や大仏への評価が低いことなどが判明した。

(4)中国人観光客への対応のあり方

訪日中国人観光客に係る様々なトラブルの現象を考察したうえで、観光客と受け入れ側との摩擦を解消し観光の意義と価値を実現するためには、互いのコミュニケーションが大事であること、また、それを行うに際し意思疎通の要としての観光ガイドの役割が大きいことを示した。日本の文化習慣に対して造詣が深く、且つ責任感が強いガイドであれば、個々の場面で事前に中国の観光客に必要な事情説明と注意を促し、不必要な文化摩擦や誤解が起こるのを防ぐことができると考察した。

(5)北陸・飛騨地域の観光資源の現状と保全のあり方

1)観光資源及び観光施設の概念の整理：観光対象の構成要素について、観光対象は観光資源と観光施設から構成されるという考え方と観光対象に観光施設を含めないという考え方がある。前者では観光対象は観光者の欲求を喚起し充足させる目的物、観光資源は観光対象の素材という定義が一般的である。後者では観光者の立場に立って観光資源を捉える見解と事業の採算性から観光資源を捉える見解の二つがある。観光資源の分類については、自然観光資源と人文観光資源、複合型観光資源に3分類する考え方と自然観光資

源と人文観光資源に2分類する考え方が多い。

観光資源を観光対象として機能させ、あるいはそれ自身が観光対象となる施設については、観光施設、国際観光施設、観光客に係る施設、観光(支援)基盤などの用語が使われているが、観光施設という用語が一般的である。観光施設に含める施設の範囲と分類方法については、研究者によって大きな差異がみられる。

2)世界遺産・五箇山地域の観光の現状と課題：五箇山地域の課題は、観光客が特定の集落に集中し、他の観光資源へのアクセスが少ないこと、少子高齢化に伴って人口が減少し合掌集落の維持が困難になりつつあることなどである。課題解決のためには、合掌集落だけではなく五箇山地域全体の活性化を考えること、その際、各地区の観光資源の段階を踏まえた戦略と組織づくりが必要であることを把握した。さらに、課題解決策の一つとして、伝統的な「結い」の精神を引き継いだ新しい「結い」を提起した。

五箇山での新しい観光振興の方向性として、五箇山での研究、展示、情報の収集、教育の場として様々な活動ができるセンターの整備、新しい観光客層を呼ぶための長期滞在可能な宿泊施設の整備などを提示した。

3)砺波平野散村景観の現状と課題：砺波平野散村景観の現状と散村景観に関する住民の意識などを検討した結果、多くの市民・散村居住者は散村景観の保全が重要と考え、屋敷林を守り伝統的家屋を維持するためには、公的なルール作りや支援が必要と考えている。散村居住者を取り巻く環境が変化する中で、家族単位で維持することが困難になっており、行政と地域の人々がそれぞれの役割を果たしながら協働するという新たな取り組みの必要性を示唆している。散村景観を保全するためには、「創造的保全」という発想、屋敷林、伝統的家屋、水田、非農業的施設・空間をも含めた保全対策、ゾーン別のきめ細かな対策、屋敷林保全の循環型地域システムの形成が重要であることが判明した。

4)「つながり」による観光地域づくり：今日、活動主体や活動内容の面で多様な「つながり」がみられ、地域住民や個人客の信頼を得る観光事業を行うことが「つながり」を形成するうえで重要であることを把握した。「つながり」を活かした観光地域づくりにおいては、高い志をもつこと、地域の魅力をつくること、地域全体の豊かさをめざすこと、「学び」を重視することを示した。また、人々が交流できるたまり場、人々の相談に対応しながらたまり場を動かすスタッフ、ならびに人・情報を結びつける「リーダー」が重要であることを把握した。

5)入善町民会館の建築的価値とその影響：大

江宏の後期作品はポストモダンの流行の中で「併存混在」と受け取られ、その祖型的造形は入善町公共施設に多く取り入れられた。また稲葉實は大江の思想を基底に置き、自らの建築手法を「馴質異化」と呼ぶ。富山県下で展開された1980年代から2000年にかけての建築作品に大江からの多大なデザインの影響と展開を読み解くことができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 13 件)

高橋光幸、湯麗敏、富山県と岐阜県の観光資源および観光施設に対する中国人留学生の評価、総合観光研究、査読有、第13号、2014

高橋光幸、観光資源の定義と分類に関する考察、富山国際大学・現代社会学部紀要、査読無、第6巻、2014、109 - 125

成澤義親、日本と東アジア諸国の観光現状～北陸の観光戦略を踏まえて、富山国際大学・現代社会学部紀要、査読無、第6巻、2014、195 - 206

佐藤悦夫、観光資源としての世界遺産～平泉と五箇山の比較、富山国際大学・現代社会学部紀要、査読無、第6巻、2014、75 - 86

湯麗敏、中国人の目に映った富山の観光、富山国際大学・現代社会学部紀要、査読無、第6巻、2014、183 - 193

高橋光幸、「つながり」による観光地域づくり、復興ツーリズム：観光学からのメッセージ、同文館、2013、216 - 223

佐藤悦夫、世界遺産の現状と課題に関する一考察、富山国際大学・現代社会学部紀要、査読無、第5巻、2013、40 - 49

湯麗敏、旅を通じた異文化理解、富山国際大学・現代社会学部紀要、査読無、第5巻、2013、70 - 78

高橋光幸、日本における国際観光の展開と地域の課題、富山国際大学・遼寧師範大学共同論文集 東アジア地域の歴史文化と現代社会、桂書房、2012、190 - 207

高橋光幸、砺波平野散村景観の現状と保全のあり方、富山国際大学・現代社会学部紀要、第4巻、2012、65 - 72

成澤義親、東アジアにおける観光革命と旅の豊かさの研究 - 序、富山国際大学・遼寧師範大学共同論文集 東アジア地域の歴史文化と現代社会、桂書房、2012、208 - 223

佐藤悦夫、世界遺産・五箇山地域の観光の現状と課題、富山国際大学・遼寧師範大学共同論文集 東アジア地域の歴史文化と現代社会、桂書房、2012、237 - 257

湯麗敏、国際観光における異文化理解と交流についての考察、富山国際大学・遼寧師範大学共同論文集 東アジア地域の歴史

文化と現代社会、桂書房、2012、224 - 236

[学会発表](計 6 件)

高橋光幸、南砺市の観光資源に対する中国人留学生の評価、南砺のおもてなしを考えるセミナー(科研費研究成果報告会)、2014年1月23日、富山県南砺市

佐藤悦夫、世界遺産の保全と活用に関する平泉の取組と五箇山、南砺のおもてなしを考えるセミナー(科研費研究成果報告会)、2014年1月23日、富山県南砺市

湯麗敏、中国における世代別の価値観・消費ニーズの特徴について、南砺のおもてなしを考えるセミナー(科研費研究成果報告会)、2014年1月23日、富山県南砺市

高橋光幸、北東アジアの歴史・文化と交流、遼寧師範大学歴史文化旅游学院・招待講演、2013年10月25日、中国遼寧省大連市

浦山隆一、入善町民会館の建築的価値とその影響、黒部川扇状地研究所・平成24年度夏季例会、2013年8月13日、富山県入善町

佐藤悦夫、世界遺産・五箇山地域の観光資源の保全と活用に関する考察、総合観光学会・第23回全国学術研究大会、2012年12月15日、山口県萩市

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 光幸 (TAKAHASHI, Mitsuyuki)
富山国際大学・現代社会学部・教授
研究者番号：30512264

(2) 研究分担者

成澤 義親 (NARISAWA, Yoshitika)
富山国際大学・現代社会学部・教授
研究者番号：20326573
佐藤 悦夫 (SATO, Etsuo)
富山国際大学・現代社会学部・准教授
研究者番号：40235320
浦山 隆一 (URAYAMA, Takakazu)
富山国際大学・現代社会学部・教授
研究者番号：10460338
湯 麗敏 (TANG, Rimin)
富山国際大学・現代社会学部・准教授
研究者番号：00387333

(3)連携研究者

()

研究者番号：